

第51号
2019年6月発行

【発行元】
港区芝地区総合支所協働推進課
発行部数31,000部

芝地区地域情報誌



『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、さまざまな行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。

まちのリビング ご近所ラボ新橋

GOKINJO INNOVATION LAB SHIMBASHI



ご近所ラボ新橋とは

慶應義塾大学と芝地区総合支所が協働で運営する、芝地区地域事業「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」の拠点です。子どもから高齢者まで安心して暮らすことができる地域づくりをめざし、あたたかい人と人とのつながり・支えあいを再生することを目的としています。

「ラボ」とは、「研究室」や「実験室」のこと。「ご近所ラボ新橋」は、身近なところから地域や社会をちょっとよくできそうな新しい地域づくり(=ご近所イノベーション)の活動拠点です。

人と人がゆるやかに出会い・つながるご近所の集い場「まちのリビング」。ビル群に囲まれた新橋のなかで、コーヒーの香り、時々おいしいおやつと共に花咲くおしゃべり。外ではすれ違っていくだけの人たちと、縁が交差するような時間と空間を共有しながらも、自分たちで過ごしたいように居ることができる、そんな地域の居場所になっています。お弁当を持って一時間だけ一休みに、ちょっとお出かけの合間にお茶で一息、お散歩のゴールとして目指して来たり、今日も会えるかもしれないまちのなかの顔見知りにあいさつに来たり。お気軽に顔をのぞかせてみてください！

こんな活動をしています！

ほんどころ 本処せな

本を通じたコミュニケーション「読みニケーション」のムーブメントを巻き起こすことを目指しています。ご近所ラボ新橋にあるたくさん本を活用して、「本」にまつわるさまざまなイベント、ワークショップを開催しています！



TinTinTangoCafé

世界一幸福な国※1フィンランドには、誰もが平等に参加できるダンスカルチャー「ラバタンシ」があり、地域コミュニケーションの活性化に一役買っています。その魅力を是非皆さんと共有したいと思い、体験などの活動をしています。

※1：国連の持続可能な開発ソリューションネットワーク(SDSN)「世界幸福度報告書」2019年版より



クリエイティブリユース 手しごとカフェ

手しごとを楽しむ人たちが集う場を開いています。リユース素材からものづくりを試みる実験室です。手しごと好きの仲間との出会いや、お茶やおやつ、おしゃべりを楽しめます。



ボードゲーム部

世界のボードゲームで遊び、交流します。毎月第一火曜日の夜に大人向けの部活動、第一土曜日の午後に親子で楽しめる「キッズボブ」を

開催。時々ゲーム大会などの特別企画も行います。



一人ひとりがその人らしさを生かし、新しいまちづくり・コミュニティづくりを試す「まちの実験室」を目指しています

場を開いて、来る人を迎える喫茶店の「マスター」のようなスタッフ自身も、「お店の人」「行政の人」ではなく、一市民です。かつて来場者だった人が、来る人を迎える側にまわることも。まちづくりに関心のある人が「やってみたい！」と集って自分の好きなこと、得意なことを活かして地域コミュニティづくりに取り組んでいます。「欲しい地域サービスがあれば、小さくても自分たちでやっちゃえばいいじゃない！」——そんな機会がここにあります！

スタッフも募集中です

何度か来場して場に慣れてきたら、企画やオープスタッフにもチャレンジしてみませんか？ まちの居場所づくり、コミュニティづくり、公共の場の運営、人と人をつなぐことに関心があれば是非！一人では難しくても、ラボにいる仲間が応援します。お気軽にお問い合わせください！

写真・文：ご近所ラボ新橋・芝地区総合支所協働推進課

Information

ご近所ラボ新橋

新橋 6-4-2 きらきらプラザ新橋 1階

TEL 03-6459-0789 (開室時間のみ)

開室日時※2：月・火・木・金 11:00～16:00

水 17:00～21:00

土(不定期) 11:00～16:00

※2：開室不定期。毎月の予定についてはお問い合わせください

「喫茶フジ」

～昭和の香り、
変わらない良さ～

新橋は交通ターミナルとしてアクセスも良く、全国的によく知られ、親しまれているまちです。また、ビジネスマンが元気に働いているイメージとして、メディアにも頻繁に取り上げられています。今回は、新橋での憩いの場「喫茶フジ」をご紹介します。

新橋のランドマーク的な存在、ニュー新橋ビルの竣工は、昭和46年(1971)です。このビルの地下1階にある「喫茶フジ」の創業もこの頃になります。

店の名前の「フジ」は、まさにその名のとおり「富士山」に由来するもので、初代創業者によって名づけられたそうです。

取材させていただいた時間帯は、開店したばかりの朝。喫茶フジ店長、平木さんの手際良い、モーニングメニューなどの仕込みを拝見しながら、お話を伺いました。

オフィス街の一日の幕開けの臨場感が、厨房からも、とても伝わってきます。

広々とした店内は「青色」で統一され、「フジ」テイストが、ところどころにちりばめられています。壁一面、大きな富士山の写真パネルが飾られており、その富士山をどこの席から眺めようかなどといった思いが、ふと浮かんでくるのも楽しいです。

店内では現在の3代目社長、市原宏昭さん



壁を飾る富士山の写真パネル ※写真は、変わることがあります

ご考案、店名(Fuji)ロゴ入りオリジナルカップ&ソーサーで、ブレンドコーヒーを堪能できます。そしてお食事には、静岡ご当地メニューの「富士宮焼きそば」まで楽しめます。

無料Wi-Fiのサービスもあり、多様なシーンにも対応されており、席を予約することもできます。

平木さんもウェイトレスさんも勤続20年以上のこと。常連さんらしいお客様とのフレンドリーな挨拶や会話が、とても温かい雰囲気です。喫茶店そのものが、日常のワンシーンでもあるのだと感じました。

喫茶フジの魅力は「変わらないこと」と語る平木さん。

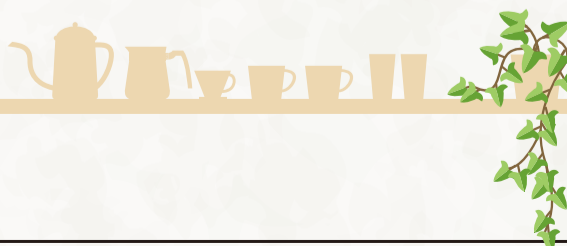
時が移り変わる今もお、親しまれるこの場所、この味、このひととき、喫茶フジでゆったりと過ごされるのはいかがでしょうか。

取材・写真・文：桑原 庸嘉子



Information

喫茶フジ
新橋 2-16-1 ニュー新橋ビル B1階
TEL 03-3580-8381
営業時間：月～金 9:00～20:00
土 9:00～18:00
定休日：日・祝



地域活動紹介

「男性専科 江戸カフェ EDO café」

芝地区高齢者相談センターでは昨秋、60歳以上の男性を対象とした「江戸カフェ」をスタートしました。「江戸カフェ」とは「江戸」をキーワードに、男性の高齢者が気軽に集える生涯学習の場です。講座+座談会の形式で、江戸時代についての知識の習得と、江戸時代に興味を持っている仲間とのふれ合いを目的としています。

この「江戸カフェ」は昨年5月に同センターから「芝地区区民参画組織『芝会議』」3部会の一つ、「まちの魅力発掘部会」へ企画の相談をしたことから実現しました。同部会は、芝地区のまちの魅力の発掘、発信等の活動を主に行っており、実働部隊の「芝の語り部」が日ごろからまち歩きツアーや歴史講座を開催しています。



「江戸カフェ」は、平成30年(2018)11月4日、平成31年(2019)1月27日、3月31日と、現在まで3回、三田の「芝コミュニティはうす」で開催されました。

講師には「芝の語り部」メンバーで港区観光大使の増田由明さんを迎え、まずはプロジェクターを使って江戸時代のお話を聞いたあと、ゆったりとお茶を飲みながら質疑応答、懇談の時間をもちます。

大江戸日本橋絵巻の「庶民勝覧」から江戸の人々の暮らしを覗いてみました。そこにはいろいろな職業の人々がいる、皆笑顔で暮らしている様子が描かれており、牛や馬にまで深い愛情をもって生活していた様子が伺えます。

これからも2カ月に1回集まって江戸時代の



東京メトロ三越前駅地下コンコース壁面に常設されている複製絵巻「庶民勝覧」の一部
Kidai Shoran (Excellent View of Our Prosperous Age [in Edo]), Anonymous
Japanese handscroll ©1805, Museum of Asian Art (Berlin)



歴史や庶民の生活を紐解いて、男性の高齢者が気楽に集まれる楽しい交流の場を作りあげていきたいと思っているそうです。

右の「江戸カフェ」のロゴマークに使用している色は通称「金春色」もしくは「新橋色」とい、新橋の金春新道に置屋があった芸者が好んで使った色です。明るく緑がかった浅葱色に近い鮮やかな青緑色のことです。ロゴの下にある英文は「EDO」にかけての造語で、Every Dandy Open the door の頭文字を使っています。

今後も原則、奇数月の最終日曜日の午前中に実施する予定です。

高齢男性の皆さま、是非ご参加してみてくださいいかがでしょうか。



取材：米原 剛
写真提供：芝会議まちの魅力発掘部会

Information

芝地区高齢者相談センター
(芝地域包括支援センター)
TEL 03-5232-0840



東京慈恵会医科大学附属病院通信・第3回

慈恵大学病院と地域をつなげるための医療連携とは

「地域医療連携」とは、地域の人びとが継続性のある適切な医療を受けられるように、地域の医療機関同士が相互に連携を図り、医療機能を有効に活用することです。港区の地域医療連携の要を担っている慈恵大学病院 患者支援・医療連携センター長の石川智久さんに、お話を伺いました。



患者支援・医療連携センター長、石川智久さん



Q 患者支援・医療連携センターとは、どのような部署ですか？

区内唯一の医科大学、特定機能病院として高度医療の提供や技術開発や研究、医療人の人材創出が当院の本分です。そのため、受診の際は医療機関や健診機関からご紹介いただくことが大部分で、的確につなぐことがセンターの役目です。日時や情報を病院の中で共有し、滞りなく受診へ導いています。治療や手術が終わった際、継続治療や療養が必要な方々には、地域の医療介護機関とつなぐ役目も担っています。一貫して患者さんが「主役」となる医療実践に努めています。

Q センターでは、どのような相談ができますか？

当院への受診、入院に関する相談は、「何でも」お受けしています。センター内では、医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)が国、自治体の補助や助成制度、リハビリテーションや療養へつなぐための相談を受けており、在宅療養支援の専任看護師が、在宅医療や療養のための相談を受けています。その他にも、グリーンカウンターでは外来診療、入院から退院まで一貫した相談窓口として経験豊富な看護師が、細やかに対応しています。また、他院での診断や治療方針に関する相談のため、セカンドオピニオンについてもお受けしています。

Q 仕事と治療の両立についても力を入れていると伺いました。

治療法の進歩もあって、多数の病気について外来で治療ができるようになりました。がん疾患や循環器、呼吸器などの慢性の病気でも、仕事の継続が可能となっています。仕事と治療が両立できることは患者さんにとって、収入の面だけではない大きな意味があると思います。当院では、患者さんの同意を得て、勤め先の産業医の先生と相談しながら仕事と治療の両立のための支援をしています。

あなたに知ってほしい 治療と就労の両立支援

抗がん剤治療を続けなければならない…
脳卒中の後遺症で思うように動けない…
フルタイム勤務は体力的に厳しいかも…

そんな不安を感じているあなたのために、治療を受けながら無理なく安心して、就労を続けていただけるように、主治医がサポートする仕組みです

サポートの仕組み

①受診時にお仕事の内容や勤務状況を伺い、また産業医から情報提供を受ける

②あなたが治療をしながら安心して仕事を続けるために勤務先と連携してほしいことを「主治医意見書」としてお伝えします

※この仕組みは患者さんの同意によって行われます
※治療を継続的に必要とするがんを含めた慢性疾患が対象です



みんなの健康教室：目薬のさし方を参加された皆さんで実演しました

Q 病院と地域を結ぶ活動もされているようですが、どのようなことをしているのですか？

ご来院される患者さんのための活動だけではなく、大学や病院の持つ情報を地域に向けて発信することも大切な仕事です。愛宕山のNHK放送博物館では、一般の方々を対象とした「みんなの健康教室」を医師や医療職が講師となり、奇数月土曜日に開催しています。本年度は1年間、「痛み」をテーマに開催予定です。この他にも、最新の医療情報の提供や医療職や介護職の方々への研修会も実施しています。

Q 区内小中学校でも活動されていると伺いました。どのような活動ですか？

港区教育委員会と協力して、これから社会を担う児童や生徒に対して、「生命」や「がん」に対する出張授業も実施しています。医療の最前線で活動している医師や看護師の言葉に何かを感じていただいていると思います。また、教職員の方々へは、救命救急処置やアレルギー急変時に対する処置についても講習会を開催しています。

Q 地域の皆様に何かメッセージをお願いします。

患者支援・医療連携センターでは、当院のご受診に際して、個々の疾病だけでなく、患者さんの背景や想いを考えた最適、最良な医療が提供できるようにしてまいります。本学は、明治14年(1881)の開学以来、約140年を迎えようとしております。今後も「病気を診ずして病人を診よ」の理念の下、患者さん中心の医療を目指し、地域の一員として貢献できるように努めてまいります。



区内小中学校出張授業：専任看護師による出張授業、生徒の眼差しは真剣そのものでした

2019年度 **みんなの健康教室**

そこが知りたい！ 気になる痛み **入場無料**

- 2019年7月20日(土)
「原因は何？…おなかの痛みの分析のしかた」
櫻井 俊之(消化器・肝臓内科 助教/診療医員)
「腹痛の画像診断～こんなに見えるお腹の痛み～」
大木 一剛(画像診断部 助教/診療医員)
- 2019年9月21日(土)
「膝の痛みの原因と治療の実態 ～80歳、90歳でも元気に歩くために～」
斎藤 充(整形外科 准教授/診療医員)
「自宅でできる膝痛予防」
末住野 健二(リハビリテーション科 中央講師/理学療法士)
- 2019年11月2日(土)
「やはり、気になる頭痛～付き合うことも、恐れることも～」
村上 秀友(神経内科 准教授/診療医員)
「頭痛を起す疾患の画像～見える頭痛と見えない頭痛～」
清水 智也(画像診断部 助教/診療医員)
- 2020年1月11日(土)
「その痛み、放っておいて大丈夫？ 胸背・咽頭・心臓部痛」
南井 孝介(循環器内科 講師/診療医員)
「待ったなしの大動脈疾患」
大内 厚太郎(画像診断部 助教/診療医員)
- 2020年3月14日(土)
「ペインクリニックの疾患と最先端治療」
北村 俊平(ペインクリニック 助教/診療医員)
「自宅でできる腰痛予防」
岡道 駿(リハビリテーション科 理学療法士)

進行：石川 智久 東京慈恵会医科大学附属病院 患者支援・医療連携センター長
消化器・肝臓内科 診療医員

会場：NHK放送博物館 愛宕山8Kシアター
時間：14:00～15:15 (開場13:30)

※申込方法
※参加費は無料です。定員に達しない場合は、キャンセル料を徴収させていただきます。
※講師・入場料は別途お支払いとなります。
※お問い合わせ先
東京慈恵会医科大学附属病院 患者支援・医療連携センター 事務局
〒100-8303 東京都港区新橋3-2-5
TEL 03-3433-1111
http://www.jikei.ac.jp

取材：米原 剛
写真・資料提供：学校法人 慈恵大学

Information

学校法人 慈恵大学
西新橋 3-2-5
TEL 03-3433-1111(大代表)
http://www.jikei.ac.jp



芝地区 いきいきプラザ

老舗よもやま話編

三田・神明・虎ノ門の3館では、芝地区に関わるさまざまな講座が開催されています。今回は芝地区内で100年以上続いている老舗の集いである「芝百年会」とコラボし神明いきいきプラザで開催した、老舗の旦那、女将による「よもやま話」をご紹介します。

芝地区には、歴史的に和と洋の文化に基づきさまざまな老舗があります。商売上の蘊蓄と、災害・戦災などを乗り越えた老舗の軌跡など、他では聞けない、魅力あるお話を聞くことができました。



第1回

第1回は平成30年(2018)7月18日、芝大門更科布屋7代目ご主人によるお蕎麦についてのよもやま話です。お蕎麦の食べ方は自分の好きなように食べるのが一番とおっしゃっていたのがとても印象的でした。



第2回

第2回は本年3月6日、田村町木村屋4代目ご主人によるお店のこだわりや歴史にまつわるよもやま話です。田村町木村屋では万人受けする洋菓子ではなく、甘いお菓子を食べてほしいという思いから、とても甘い洋菓子を作っているそう。コーヒ―は濃いめに作っているので、甘いお菓子との相性は抜群！



第3回



第3回は3月20日、芝のおかめ鮓5代目、釣りが大好きなご主人による、お鮓にまつわるよもやま話です。お鮓クイズや「鮓」「鮓」「寿司」の漢字のルーツを面白おかしくお話いただき、会場は終始笑い声で溢れていました。オマケに鮓のづけの握りもいただきました。



第4回

第4回は5月29日、三田の秋色庵大坂家18代目ご主人によるお店の歴史、看板お菓子「秋色最中」についてのよもやま話です。創業は元禄、江戸時代から続く老舗の和菓子屋さんです。名物の「秋色最中」もいただきました。

芝百年会

芝地区にある創業100年を超える老舗が集まって創設した文化の発信・相互交流・研究会。

http://shiba-shinise.com/

次回予定 7月17日(水) 14:00～15:30 新橋の「すき焼 今朝」

取材・文・写真：米原 剛

Information

芝地区のいきいき3館ではこのほかにも芝に関わるさまざまな講座が用意されています。ぜひ、各館にお問い合わせください。
https://shiba-ikiiki.com/



- 三田いきいきプラザ
芝4-1-17 TEL 03-3452-9421
- 神明いきいきプラザ(プラザ神明)
浜松町1-6-7 TEL 03-3436-2500
- 虎ノ門いきいきプラザ(とらトピア)
虎ノ門1-21-10 TEL 03-3539-2941



みなと子ども 読書まつり



「ろうそくの歌」でおはなし会の開始です



子どもたちも真剣に聞いています

子ども読書週間は全国で展開されるもので、区立図書館全館では「みなと子ども読書まつり」と銘打ち、各館で子どもの読書を盛り上げるさまざまなイベントを実施しています。

4月20日から5月20日の1か月間「第7回みなと子ども読書まつり」が開催されました。港区には7つの区立図書館があります。そのうちのひとつ、芝公園にある「みなと図書館」では、0歳児から小学生を対象とした「おはなし会」「かたりべによる民話と昔話」「あそびうたコンサート」など、さまざまな催しがありました。

広尾学園による「おはなし会」

4月20日に行われた私立広尾学園ボランティア部の高校生による「昔話おはなし会」にお邪魔しました。午後3時、図書館1階にある「おはなしコーナー」で会が始まります。高校生3人が「ろうそくの歌」を参加者と一緒に歌って雰囲気盛り上げると、0歳児から小学校低学年の子どもまで、十数人が集まってきました。そして『さるかにがっせん』『こぶとりじいじ』『かちかちやま』と、おなじみの昔話の読み聞かせ。続いて3人が演じる紙芝居「ふるやのもり」を、子どもたちは食い入るように見聞きして、最後

まで30分以上、集中していました。絵本に対する興味は目を見張るものがあります。ボランティアの高校生も一人ひとりの役割分担をこなし、息の合った読み聞かせでした。最後に、今日読んだ本の紹介があり、「昔話おはなし会」は終了です。広尾学園のボランティア部では部員が交替でみなと図書館での「おはなし会」の読み聞かせを行っています。この日は3人も高校2年生でした。学校の授業でもプレゼンの機会があるそうで、人前で発表するのは慣れていているとのこと。さすが読み聞かせといい、紙芝居といい、堂に入ったものでした。

参加したお父さん・お母さんの声

参加されていたお父さんにお話を伺いました。「たまたま図書館の前を通ったら案内の職があったので入ってみました。子どもも喜んで聞き入っていたので、また来ようと思っています」。



息の合った高校生3人。お疲れさまでした

別のお母さんは「おはなし会(読書まつり以外でも開催している)に来るようになり、本が好きになりました。子どもが自分から進んで本を読むようになり、ここに来るのを楽しみにしています」とのこと。保護者の方は異口同音に「おはなし会」の素晴らしさを語っていました。

後日、高校生による「英語と日本語のおはなし会」も行われ、好評を博したそうです。子どもだけでなく、大人の参加者もいました。今年の「こども読書まつり」は終了しましたが、「おはなし会」は1階の「おはなしコーナー」で第2・第3土曜日に開催しています。コーナーの隣には中高生向けの図書コーナーもあります。図書館でのイベントや読書を通じて、イメージを豊かにしてみませんか。

取材・文：伊藤 早苗

Information

区立みなと図書館
芝公園 3-2-25
TEL 03-3437-6621

「三方利」の理念を引き継いで、時代と共に変化



猫雑貨の店 「エブリー」



リトアニアから生地を導入して作った、エブリー・オリジナルの猫柄バッグ

恵布利商事株式会社が経営する西新橋一丁目の猫雑貨の店「エブリー」は、来年開店50周年を迎えます。店主の長谷川明子さんと、友人の吉田和子さん、長谷川さんの姪の小関加奈子さんの3人で切り盛りしているこのお店は、昭和45年(1970)に衣料品と日用雑貨の店として長谷川さんの父が創業しました。社名の恵布利は「恵に満ちた」、「布を使つての仕事」で「皆に利を」という思いを込めてつけられたものです。かつて萬屋と呼ばれた雑貨店にちなんで、「すべて」を意味する英語の「every」とのごろ合わせも兼ねています。

開店当時はコンビニやドラッグストアがない時代で、多様な雑貨の需要があり、まさに何でもそろえました。



数え切れないほどの猫グッズが、店内所狭しと並ぶ

た際に来たりします。スマホの通訳アプリを使ってコミュニケーションをとるので、意思疎通は問題なくできます。

柔軟に時代の変化に合わせてきたエブリーですが、変わらないのは父の理念だった「三方利」を守り続けること。これは作る人・売る人・使う人、皆が幸せになる商売をするようにという基本法則です。

父の代からの生地屋さんとのつながりを活かし、リトアニアやアメリカなど海外からの輸入生地で作ったオリジナル商品も並べています。一点物の猫グッズをオーダーメイドで入手することもできます。

今後はさらにオリジナルの猫グッズを増やした店舗構成にして、ここにしかない物を置いていく予定です。楽しみながら商売していくことが長続きの秘訣なのだとか。

猫好きの方、都心にある猫商品であふれたお店に是非足を運んでみてください。



虎ノ門ヒルズのあたりに開店した当時の長谷川さん(左)と吉田さん(右)
(写真提供:エブリー)



取材・文：米沢 恵美

オイルショックで物価が高騰した時は仕入れに苦労したものの乗り切り、その後のバブル景気の時に広い店に移りました。出勤前に買い物をする人のため、朝7:30から開店するようになり、雑貨のシェアも増やしていきました。

平成16年(2004)からは、一転して猫雑貨を専門に販売するようになります。コンビニが出店してくる中で、お客様がハッピーになる物を売りたいと考えたのです。平成25年(2013)からネットショップも立ち上げ、来店のきっかけを作りました。ネットで見た人が出張で東京に来たついでに寄ったり、外国の人が来日し



左から、長谷川さん、長谷川さんの姪の小関さん、友人の吉田さん

Information

猫雑貨の店エブリー
西新橋 1-22-10 西新橋アネックスビル1階
TEL 03-3503-2003
営業時間：火～金 9:00～20:00
土 10:00～17:00
定休日：日・月



がりを大切に、気軽に立ち寄れるサロンを目指します。

* * *

「サロンはなみずき」は5年目に入り、ますますパワーアップしているようです。「参加者同士が顔なじみになり、道で会った時にあいさつを交わし、会話も弾んでいる様子を見聞きするとうれしく思います」と、小林さん。お人柄がにじみ出る優しい言葉でした。

「町内には一つはサロンがあったらいいわね」と、代表者小林さんは願いを語ります。

取材・文：伊藤 早苗
写真：米原 剛



和菓子の歴史を学びました(写真提供:サロンはなみずき)

Information

サロンはなみずき
活動日：第2 or 第3水曜日 14:00～15:30
活動場所：障害保健福祉センター
(ヒューマンぶらざ) 7階
竹芝小記念ホール(芝 1-8-23)
問い合わせ先：港区社会福祉協議会 地域福祉係
TEL 03-6230-0281

「サロン活動」訪問記

「サロンはなみずき」



4月10日は月に一度の「サロン」開催日。真冬を思わせる寒い日でしたが「ヒューマンぶらざ」7階では温かな笑い声が響いていました。

代表の小林和子さんにお話を伺いました。

* * *

平成25年(2013)1月、民生・児童委員になった時に「一人暮らしの高齢者が気軽に集まれる場所があったらいいな」と考えていました。翌年、チャレンジコミュニティ大学(港区と明治学院大学が連携して地域コミュニティ活性化のリーダーを育成)に入り、一年間福祉や地域活動の勉強をする中で、その思いを強くしました。芝金杉町会の役員をやっていた関係で地域の



2人1組になって、リラックスしながらアロマのハンドマッサージ(写真提供:サロンはなみずき)

人たちは顔見知りです。皆さんの協力の下、平成27年(2015)4月、港区社会福祉協議会の認可を受けて「サロンはなみずき」を立ち上げました。名前の由来は「港区の木・はなみずき」からです。ひらめきで決めました。

▶ 工夫を凝らしたイベント

毎回イベントを取り入れ、春には旧芝離宮恩賜庭園や芝公園でお花見も実施しています。手話通訳者の協力もあって、さまざまな方が参加するようになりました。高齢者支援センターの方やふれあい相談員の出席時には、その場で参加者の疑問に答えてもらえることも大きな魅力になっています。

▶ 仲間とともに

一緒にサロンを運営している協力者は民生・児童



港区音楽連盟会長の清水軍治さんの演奏で皆さん楽しく歌っています

委員や町会・近隣の人などです。役割分担を決めて楽しく活動しています。参加者の輪も徐々に広がり、芝一丁目・二丁目からだけでなく、浜松町や大門からの参加者も増えつつあります。

▶ 今後の進め方

参加者の数を増やすだけでなく「楽しかった」と思ってもらえるようなサロンにしていきたいです。参加者の身体的な変化もあるので、送り迎えをするなど、きめ細かな対応を考えています。同じことの繰り返しではなく、一歩進んで利用者の気持ちになって進めていきたいです。

▶ やって良かった

「楽しくやっぴいこう!」をモットーに、人々のつな



一緒にサロンを運営しているスタッフの方々

芝の家・ちゃぶ台日誌 春編

どなたでも自由に出入りできる「まちの交流拠点」芝の家。日々、近所の方から遠方の方まで、年代も0歳～学生～シニア世代まで、多種多様な方が立ち寄ります。

芝地区の地域事業「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」の拠点。芝地区総合支所と慶應義塾大学の協働で始まり、事務局スタッフとボランティアスタッフが日々の場を運営しています。姉妹拠点「ご近所ラボ新橋」(新橋6-4-2)と合わせてお気楽にお立ち寄りください。



この春も、芝の家で育てているよもぎの若葉を摘んで、来場する子どもたちとお団子を作りました。来場者の方からあんこの差し入れもいただきました。



ご近所さんによる企画「レコードコンサート」。

それぞれの好きなこと(関心事)を持ち寄り、場が作られています。「気持ちやものを持ち寄り、つながる場」から生まれる温かい思い合いの場が、日々生まれています。



ボードゲーム好きのお兄さんを囲んで、楽しいひととき。

「ちゃぶ台日誌」は、芝の家ホームページにて日々の様子やイベントのお知らせを投稿するブログのタイトル。ぜひホームページも合わせてご覧ください。



Information

芝の家
芝 3-26-8 (2019年1月に移転)
TEL 03-3453-0474
開室日時：火・木 11:00～16:00
水・金・土 12:00～17:00
休室日：日・月・祝
文：芝の家・芝地区総合支所協働推進課

買い物するなら地元の商店街で

●本誌の制作には以下の編集委員が参加しています
伊藤早苗/菊池弓可/桑原庸嘉子/柴崎賢一/柴崎郁子/田岡恵美/千葉みな子/早川由紀/森明/森田友子/米沢恵美/米原剛(五十音順 敬称略)
●今後の発行スケジュールは次の通りです
2019.9(第52号)、2019.12(第53号) 2020.3(第54号) 2020.6(第55号) ※各号発行月の20日ごろ

Going shopping? Visit our local shopping streets.

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設などで配布しています



さて明日の芝の家ではどんなことが起きるでしょう。

2～3月、合わせて3つのTVのドキュメンタリー番組に登場した芝の家。何気ない人と人との交流に触れ、番組を観て知ったいろいろな方が訪ねてきたり、贈り物が届いたりしました。
愛知から、「子どもたちへ」と、手作りの小物。また、北海道からパステル画を贈ってくれた方も。



木曜日のランチ会に、お庭にたくさん生えてくる筍を差し入れてくれた方も。

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめました。ウォーキングマップとしてご活用ください。

芝地区MAP



港区芝地区総合支所協働推進課

〒105-8511 港区芝公園1丁目5番25号(港区役所1階)
TEL03-3578-3192 FAX03-3578-3180

ホームページ

<http://www.city.minato.tokyo.jp/>